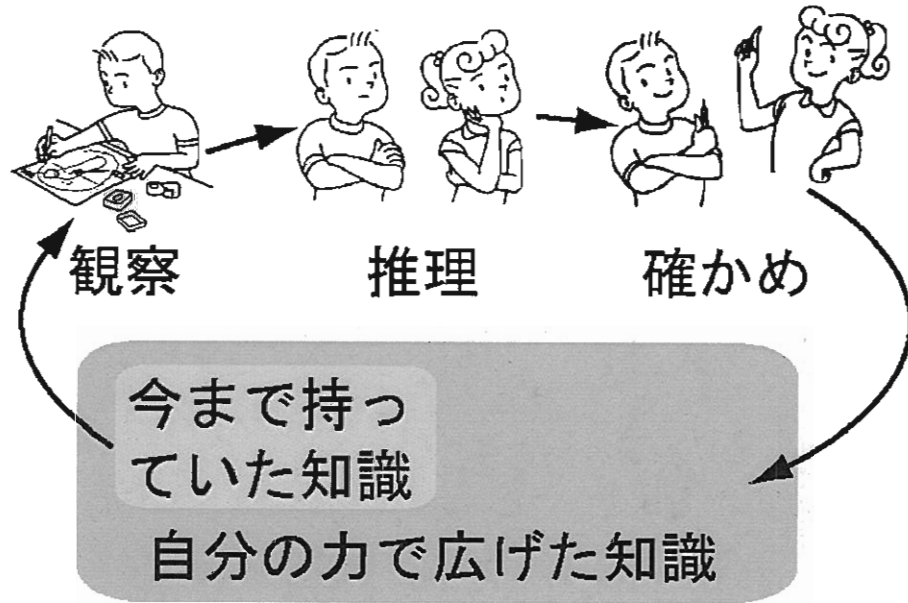


第1回ミュージアム・エデュケーター研修  
教育プログラム体験

貝体新書：おとなが学ぶ二枚貝  
—参加者が経験をもとに科学的推理をするプログラム—

京都大学総合博物館 大野照文

## 学習プログラムの重点



1

## 確かめ



自分の力で発見

2

## 議論で深まる学び

「三葉虫を調べよう」を受講した高校生の感想

「三葉虫の姿などを予想して、それに反対意見が出て対立して、どっちなのだろうと、とても関心を持ちました。私が絶対ないだろうと思っていたものが正解で、化石が本当に残っていたりして驚きの連続で興奮してしまいました」

なぜ学校という集団で学習するのかということへの一つの答え



発見する自分を発見してウツリ！  
学習に対する深い動機付けが自然に起こる。

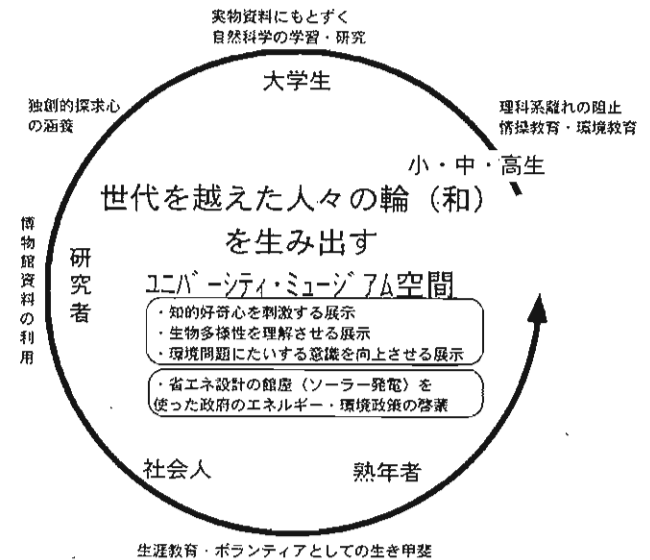
3

4





# 1997年に立てた目標



## 総合博物館が築いたネットワーク (2001-2008)

生涯学習のお手伝い

### 研究者と楽しく学習

- ジュニア・レクチャー
- シニア・レクチャー
- 企画展・ガイドツアー
- 学習教室
- 週末子ども博物館・出張子ども博物館
- 科学座談会・ITの達人の府下への派遣
- 京都市科博連フェスティバル参加

### 学習教材の開発

ジュニア向け

- 三葉虫を調べよう
- 二枚貝を調べよう
- 生き物の歴史カレンダーをつくらう

シニア向け

- 具体新書

### ネットワーク

- 研究者・大学職員・大学生・大学院生・高校生
- HOP+H&D+斎藤麻紀+鎌谷仁美
- 京都府教育委員会
- 京都市教育委員会
- 京都市青少年科学センター
- ミュージアムショップ MUSEP
- 京都大学学術出版会
- 小学校教員グループ
- 京都大学記者クラブ
- 京進造形芸術大学

博物館の財産

### 貴重な標本群

### 研究者

### 展示

### 公共空間

### シンポジウム

## 子どもたちの未来のために

～京都から広がる学びのネットワーク～

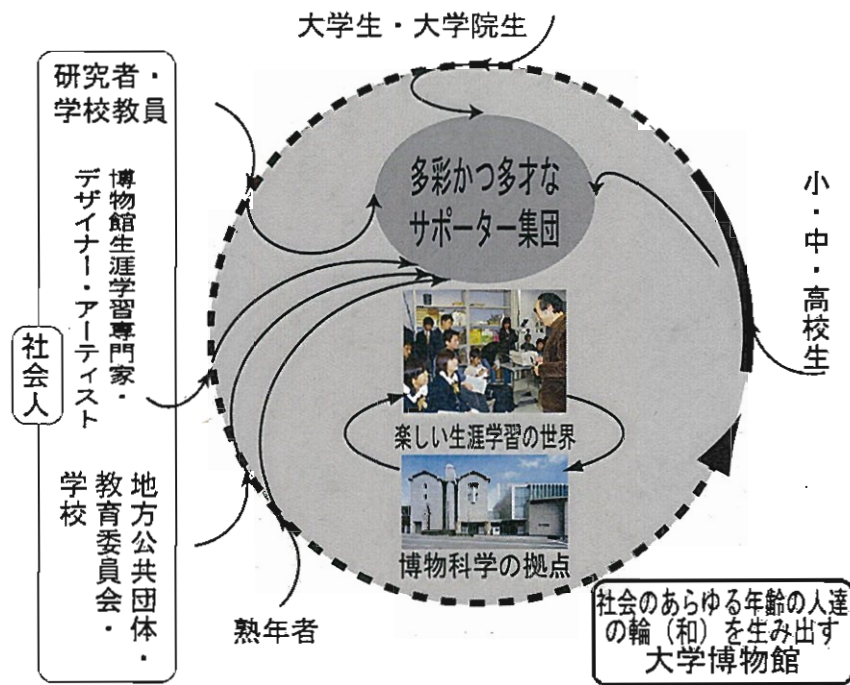
開催日：平成22年5月23日(日) 13:00~17:00 (13:00開場)

会場：京都大学百周年時計台記念ホール

これらの社会を支えていく子どもたちが、未来に向かって夢や希望を持って学んでいけるようになるために——— 京都大学と京都府教育委員会は、子どもたちの学びのためのネットワークを、この京都から広げていきたいと考えています。

子どもたちが、将来の夢に向かって自ら学ぶ習慣を身につけるためには、どのようなきっかけが必要でしょうか。若者のコミュニケーション能力やモラルの向上にはどのように取り組めばいいのでしょうか。保護者の方々をはじめ、学校の先生方、教育に関心のある方々、是非このフォーラムに参加いただき、私たちと一緒に考えてみませんか。

	開会挨拶 西村 周三 (京都大学副学長)		司会 西村 和雄 (京都大学名誉教授)		講演 益川 敏英 (京都産業大学教授・京都大学名誉教授)		ミニコンサート 深川和美の童謡サロン (深川和美・ソプラノ、多久藤三恵子、土井秀行・パーカッション)
	パネルディスカッション テーマ「学びのしかずづくり」		コーディネーター 大野 照文 (京都大学総合博物館長)		パネリスト 国原 博明 (京都府教育委員会委員長)		ホスト 藤本 浩一 (京都大学総合博物館学芸員)



9

## 1. 博物館とは

- 博物館には、モノが一杯
- 博物館では研究をしている
- 博物館では、標本を貸し出している
- でもなぜ、必要？

10

## 博物館とは

- 私たちのルーツを温め未来を探るための巨大装置＝「学び」の場
- 記憶(モノと知的遺産)を次世代につなぐ場＝人類至高の企ての場(熱力学第2法則にさからう企て)
- 知恵が試される場

宇宙戦艦ヤマトや宇宙船エンタープライズみたいにかっこいいはず(館+モノ+スタッフ+戦略)

11